

=====

◆◇「犯罪からの子どもの安全」メールマガジン vol.18 ◇◆
2010年2月25日号

=====

このメールマガジンでは、(独)科学技術振興機構 社会技術研究開発センター(以下、RISTEX)「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域が領域の活動報告をはじめ、各種イベント案内、国の取組み、問題に取り組む人々の紹介など、犯罪からの子どもの安全に関する様々な情報を毎月一回程度配信しております。

次回から配信を希望されない方、登録情報を変更したい方は、末尾をご参照下さい。

メルマガについてご意見やご感想、こんな情報が知りたい、こんな取り組みを行っているなど、皆様からの情報をお待ちしています！

◆◆ INDEX ◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート
- Irit Hershkowitz先生による講演会
「エビデンスにもとづく子どもへの司法面接」参加レポート
2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報
3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング
今月一番注目されたコンテンツとは・・・

◆◆◆◆

1. 犯罪からの子どもの安全レポート

皆さんこんにちは！

暦の上では立春を過ぎ、過ぎゆく冬を惜しみつつ、春を待ちわびる今日この頃。少し前には、東京でも積雪を観測するなど寒さがピークに達していたように思いますが、2月も下旬ともなると、昼間の日差しが柔らかくなってきたように感じますね。雪深い地域の銀世界もあと少しでしょうか。

領域ではついに中間評価が始まりました。今回は、領域と、研究期間が最も長い2つのプロジェクトが評価の対象となっています。社会技術研究開発センターでは評価委員会を設置し、外部有識者が評価を行います。

「評価」というと、ついつい査定のようなネガティブな考えになりがちですが、社会に役立つ優れた成果を創出するためには、日々、評価・フィードバックが重要です。

いつもは、領域総括やアドバイザーがそれを行っていますが、領域に直接コミットしていない人々にはどのように映るのか？評価結果はこれからですが、日頃の評価と合わせてそれをどう活かしていくのかが、とても重要です。

先日開催した領域会議でも、これまでの活動を踏まえて残りの期間にどんな取り組みを行い、マネジメントしていくのかについて議論を行いました。

良い成果をプロジェクトの方々と共に作り上げていくために、プロジェクトの活動に参加するなど、領域ではサイトビジットを続けていて、このメルマガでも近況報告ということでご紹介しています。

最近では、「系統的な「防犯学習教材」研究開発・実践プロジェクト」が開発中の教材を用いて研修会を2つの地域で開催。領域担当は静岡の研修会に参加してきました。学習内容をはじめ、社会で使われるために何が必要かなど、様々な検証が必要です。参加者からの評価とフィードバックが期待されます。

「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」プロジェクトでは、4グループ合同の全体会議を開催しました。防犯まちづくりを支援するマニュアルを、実際に複数地域を支援しながら進めています。徐々に形が見えてきている様子。一方で、社会に普及するための工夫も検討しており、今後の展開に注目です。

「犯罪の被害・加害防止のための対人関係能力育成プログラム開発」は、3グループ合同の全体会議に参加し、初めてサイトビジットを実施しました。企画調査の成果も活かしながら、学校との協働による学習プログラムの開発に向けて、着々と準備が進められている様子がうかがえました。

また、「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクト共催の講演会が開催されるということで、参加のため、北海道を訪れました。この時期の北海道はさすがに一面、雪、雪、雪。圧巻の雪景色に寒さもしばし忘れてしまいました。講演会の様子は今号のレポートで紹介していますので、ぜひご覧ください。

その他、サイトビジットに行けなかったプロジェクトでも、様々な活動が進んでいます。読者のみなさんにも、時には優しく、時には厳しく見守っていただくという意味でも、これからも近況報告を行っていきたいと思います。

それでは最後までお楽しみください。



●Irit Hershkowitz先生による講演会

「エビデンスにもとづく子どもへの司法面接」参加レポート

2010年2月18日 北海道大学人文社会科学総合研究棟（北海道札幌市）

「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクト（代表者：仲真紀子 北海道大学 教授）が共催する司法面接に関する講演会が、まだ雪深い北海道で開催されるということで参加してきました。講演者は、イスラエルのハイファ大学教授であるイリット・ハーシュコビッツ博士です。

ハーシュコヴィッツ博士はアメリカの国立子どもの健康・人間発達研究所（National Institute of Child Health and Human Development : NICHD）で博士研究員を務めていた際、NICHD プロトコルと呼ばれる司法面接の

ガイドラインの開発に従事していました。

事件に巻き込まれたり、巻き込まれそうになった子どもから、法廷など司法の場でも活かせる正確な情報を得ることは、大変難しいもの。それを支援するための面接方法の開発に携わり、現在はイスラエルで司法面接のトレーニングを実施したり、データの蓄積や分析など、精力的に面接法の研究を進めています。

NICHDプロトコルは、実証的な研究で見出された知識に基づいて、子どもの発達レベルに見合った面接ができるように作成されたもので、当該プロジェクトの面接研修でも実際に用いられています。

今回は、主に虐待的な出来事に遭い、それについて報告を求められる子どもたち（年齢層は、4歳～13歳）にプロトコルを用いて面接を行った事例についての研究結果を基に、講演が行われました。

博士によると、子どもの報告というのは、経験した出来事を「理解」し、それを「記憶（記銘）」し、それをどのように「思い出し（検索）」、「報告」するのに関わっているとのこと。報告される情報の量や質は、発達の要因や経験した出来事の性質、どういった面接を受けたかといった要因に影響を受けるそうです。

経験した出来事について知識があり、理解しているほど、その出来事をよく記憶するもので、子どもでも大人でもよりよく報告できるとのこと。例えば、性的なことに関しては、子どもは知識がないので、記憶することが困難なのだそうです。被害を受けた子どもたちから報告を受けることがなぜ難しいのかが、このことから伝わってきました。

記憶を思い出させる方法として、「私に自由にお話して」と投げかけ、制限のない中で思い出してもらおうというものと、特定の選択肢を与える質問をしてYes/Noで答えさせるといったものがあります。

前者は後者より多くの質の高い情報をもたらすということが多くの研究で示されていますが、後者は誤った情報を引き出してしまいがちのこと。

NICHDプロトコルでは、被面接者に自由報告を求める質問が数多く提示されていて、ここは特に力を入れたところだそうです。また、間違った答えを誘導しないために、やってはいけないこと（選択式や暗示的な質問）の例なども記しているとのこと。

出来事の性質も、報告に影響を及ぼす可能性があるといいます。虐待には、“繰り返し”と“ストレス”という2つの特性があり、これは問題です。なぜかというところ、“繰り返し”経験したことは一般的な出来事として認識されてしまい、特定の出来事として報告されなくなってしまうからです。

そして、“ストレス”の大きな出来事に直面したとき、子どもは逃避するなどして自分自身を防御することもありますし、特に幼児は情報源の区別も弱く、家の中で実際に起こったことなのか、テレビの中での出来事なのか区別がつかないこともあります。これらは、正確な記憶の生成の妨げとなり、報告される情報の正確さに大きな影響を及ぼしてしまう恐れがあると言います。

しかし、被害に関する出来事を聞き取る前に、子どもに自由報告の練習をさせれば、供述がより豊富になるし、情報源の区別を練習することによって、繰り返しの出来事も区別できるようになるとのこと。ストレスについても、事前に子どもが親しんでいる事柄について話をするなどして感情的な部分をサポートすれば、トラウマを乗り越えて報告してもらえるようになるそうで、このように、出来事を記憶し、思い出し、報告する過程を面接官がサポート

すれば、幼児も詳細な報告ができるという可能性が示唆されました。

先のプロトコルは面接に対して比較的協力的な子どもに対して効果を上げていますが、話したがるない子どもにも対応できるよう、現在、修正版が出されています。話したがるない子どもは、サポートのない面接を受けてそうってしまった可能性もあるとのこと。よりサポータータイプかつオープンな面接が必要と考え、ラポール（信頼関係の構築）に重点を置き、感情面でのサポートができるよう、改訂されたものだそうです。

修正版を基に進めている研究で得られたデータについても発表されました。データはまだ精査が必要とのことでしたが、現段階で修正前のものよりも有用で詳細な供述が得られたとの報告もあり、期待が膨らみます。このデータについては今回の講習会で初めて公表したとのこと、大変貴重なお話を伺うことができました。

講演の合間には、こういった研究は、研究室での研究ではなく現場での研究であるので、とてもシリアスである。できるだけ正確な情報を得たいし、不適切な方法によって、子どもの供述を曲げてしまいたくないとの思いも述べられ、現場と向き合う研究のセンシティブな一面が垣間見えました。

また、ハーシュコヴィッツ博士からは、仲代表のチームとの共同研究に対する期待が述べられ、今後の進展が楽しみであり、要注目です。

今回の講演を聞いて、なぜ子どもから正しい情報を聞き出すことが難しいのか、今まで漠然と頭の中で描いていたものがクリアになり、そのメカニズムがよく分かりました。

（領域担当 S.F.）

2. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイト更新情報・今月の見どころ

【更新情報】

●国の取組み

ハトミミ.com「国民の声」意見受付開始（行政刷新会議）
<http://www.cao.go.jp/sashin/hatomimi/index.html>

子ども・若者育成支援に関するワーキングチーム会合（第2回）の
議事次第について（内閣府）
<http://www8.cao.go.jp/youth/suisin/working-team/index.html>

犯罪死の見逃し防止に資する死因究明制度の在り方に関する研究会（警察庁）
[議事要旨] <http://www.npa.go.jp/sousa/souichi/gijiyoushi1.pdf>
[名簿] <http://www.npa.go.jp/sousa/souichi/meibo.pdf>

平成21年版犯罪白書（詳細内容）を掲載しました（法務省）
<http://hakusyo1.moj.go.jp/jp/56/nfm/mokuji.html>

少年矯正を考える有識者会議（法務省）
<http://www.moj.go.jp/KYOUSEI/kaigi/index.html>

児童虐待防止のための親権制度研究会報告書等の公表について（法務省）
<http://www.moj.go.jp/MINJI/minji191.html>

児童虐待防止に向けた学校等における適切な対応の徹底について
(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/1289682.htm

東京都江戸川区の児童虐待事件について (文部科学省)
http://www.mext.go.jp/b_menu/daijin/detail/1289668.htm

その他の取組みについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/ministries/>

●イベント情報

平成22年3月5日 大阪教育大学主催 アジア・太平洋学校安全推進フォーラム
<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~nmsc/>

平成22年3月6日 市民参加のまちづくりセミナー ～協働ってなに?～
<http://www.city.koto.lg.jp/event/1120/kyoudou.html>

平成22年3月10日 墨田区「青少年問題を考える講演会－聞こう 話そう 大人も 子どもも－」

<http://www.city.sumida.lg.jp/kakuka/kyouikuzi/syougaiyakusyuu/info/kodomonotameniotonagadekirukoto/index.html>

平成22年3月12日 建築五会共催シンポジウム
「新たな建築・まちづくりに関わる制度と仕組みはどうあるべきか」
<http://www.aij.or.jp/aijhomej.htm>

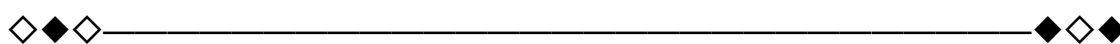
平成22年3月16日 第3回「犯罪からの子どもの安全」シンポジウム
いざというときなにが頼りかーどう身を守り、どう助けるかー
http://www.ilcc.com/kodomo_sympo/index.html

平成22年3月23日～第19回セーフコミュニティ国際会議
<http://www.safetyprom.com/news.html>

平成22年3月26日 体験活動推進フォーラム
「青少年が健康な心身を培うための体験活動」
http://www.niye.go.jp/boshu/jigyo_pdf/0326forum.pdf

平成22年3月26日～第21回日本発達心理学会大会
<http://db1.wdc-jp.com/jsdp/conf2010/index.html>

その他のイベントについてはこちら
→ <http://www.anzen-kodomo.jp/event/>



【今月の見どころ】

今月の見どころはアンケートです。

前号のメルマガで第2回アンケートを実施中のお知らせを掲載したのですが、
時期を前後して、サーバーの不具合のため、一時期ページが開けない状況が
ページ (5)

続いておりました。

アンケートのページにアクセスいただいたのにページが開けなかったという方には、大変ご迷惑をおかけいたしました。お詫びを申し上げます。

現在状況を改善いたしまして、アンケートを継続中です。第2回のテーマは、メルマガについてです。ぜひご協力ください。

第2回アンケート メルマガについて

→ <http://www.anzen-kodomo.jp/mail/index.html#enquete>

3. 「犯罪からの子どもの安全」WEBサイトアクセスランキング

【アクセスランキング】

- ☆ 1位 イベント情報
<http://anzen-kodomo.jp//event/index.html>
- 2位 研究開発プロジェクト
<http://anzen-kodomo.jp//program/research/index.html>
- 3位 研究開発プログラム
<http://anzen-kodomo.jp//program/index.html>

「犯罪からの子どもの安全メールマガジン」

▼メールマガジンに関する各種変更、配信登録・解除はこちら

<http://www.jst.go.jp/melmaga.html>

▼ご意見・ご感想、お問い合わせはこちら

c-info@anzen-kodomo.jp

■発行日 2010年2月25日

■発行元

(独) 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター

「犯罪からの子どもの安全」研究開発領域

領域WEBサイト <http://www.anzen-kodomo.jp/>

社会技術研究開発センターWEBサイト <http://www.ristex.jp/>
